



時中だより

令和6年の漢字

信



時津町立時津中学校
令和6年度学校だより1号
令和6年4月10日発行
文責：校長・副校長

令和6年度が始まりました。進級おめでとうございます。



例年より少しだけ桜の開花が遅く、最近では珍しく桜の花が残る4月8日(月)に、新学期が始まりました。朝早くから、新しい中学校生活に期待を膨らませた生徒たちは元気に登校しました。新学級の発表があると、嬉しそうに友達と喜び合う姿も見られました。

春は多くの草花も新芽が芽生え、暖かな日を浴び、爽やかな風に揺られながら、力強く成長していきます。学校も春を、生徒達の新しい出会いや目標設定の時期ととらえ、健やかな成長を促す大切な季節だと考えています。私たち教職員も新しいスタッフとなり、力を合わせて頑張っています。よろしくお願いします。



【始業式校長式辞】※紙面の都合で要約しています。

これからの1年間が、みなさんの素晴らしい成長の年になるように、「一番伝えたいこと」についてお話しします。もし私が、この時津中学校を「日本一の学校」にしたいと言ったら、どう感じますか。「無理だ」と思う人もいれば、「挨拶日本一を目指すのだから当然だ」と思う人もいるでしょう。私が日本一にしたいと言ったのは、他の中学校と比べて勝ち負けや上下をつけるものではなく、私(自分自身)の中で日本一と言えるくらい、努力をして、仲間を大切に思い、この学校が最高だと言えるかということです。1年後に、心から楽しかった、この学校で幸せだったと素直に振り返ることができたのなら、自分にとって日本一の学校だったと言えるのではないかと私は思います。つまり、日本一がどうかは自分で決めるのです。この1年は、何事にも「自分から」の精神で、積極的に行動してください。ところで、自分自身に判断基準を置くということは、自分と向き合っ

て、適切な目標を設定して挑戦していかなければなりません。この考え方を表した言葉として、「未見の我(みけんのわれ)」という言葉があります。「現在の自分は自分の全てではなく、自分の中にはまだ見ぬ未来の、成長した自分が潜んでいる」という意味です。限りない可能性をもっていることを信じて努力していきましょう。成長には仲間と「競争」することも必要かもしれません。競争する中で、勝ち負けだけにこだわるのではなく、切磋琢磨しながら互いに認め合い、共に高め合ってほしいと思います。先生方もみなさんの努力を後押ししますので、一緒に力を合わせて時津中学校を日本一の学校にしていきましょう。



【生徒代表決意のことば】※紙面の都合で要約しています。

私は今年一年で頑張りたいことが3つあり、1つ目は明るいあいさつです。はっきりとしたあいさつで、生徒や先生方が爽やかな朝を迎えられるようにし、「あいさつ日本一」になれるよう学校全体を活性化させたいです。2つ目は部活動です。美術部の活動として、体育大会等の横断幕や看板を描いているので、今年も生徒のやる気や熱意を鼓舞することができる作品を作りたいです。3つ目は新1年生の手本となり、話を聞く際の姿勢や全力で取り組む姿、どのような時も率先して動くことを見せることで一年生を引っ張っていき

たいです。(2年：入口 多紀さん)

新学期を迎え、いよいよ最高学年となるので、責任ある行動に努め、1、2年生の手本となる先輩になりたいです。中学校生活最後の一年を充実したものにすため、次の3つのことを頑張りたいです。1つ目は、高校受験に備え、これまで以上に学習に真剣に向き合っていかなければならないので、少しの時間も惜しまず地道に努力を重ねていきます。2つ目は、体育大会やすいらん祭などの行事で3年生が主体となり各縦割り集団を引っ張っていきます。活気あふれる3年生の笑顔进行全面に出した学校行事になるよう、リーダーシップを発揮し、まとめていきたいです。3つ目は、中学校最後の中総体やコンクールに向けて、納得のいく形で終えるためにも練習時間を大切にしていきたいです。以上、一生懸命頑張り、自分たちの持ち味を十分に発揮して、胸を張って卒業できる日を迎えたいと思います。(3年：岩崎 優真さん)

